

2024(令和6)年度沖縄県若年性認知症支援推進事業
本人家族交流会 若年性認知症カフェ 報告書

若年性認知症カフェ

目的：若年性認知症カフェ内で、ご本人と介護家族の交流を深め、孤立しやすい若年性認知症のご本人と介護家族のネットワークづくりを促す。

当カフェの特性

- ・ 孤立する県内の当事者及びその支援者にピアカウンセリングの場を提供する。
当日初めて参加される当事者とその家族との交流を、自助グループの方に積極的に行っていただけるよう依頼している。
- ・ 経験と技能を活かす場をめざす。交流会の場も活動の場として提供し、それぞれの活躍の場を増やすよう支援する。例：ギターや英会話などそれぞれの特技を活かした教室の開催等
- ・ カフェ内で当事者の意見を活発に頂く。施策へ反映されるよう、意見をまとめる。

1. 日時：2024年10月19日(土) : 13時～15時半 定員15～20名

【会場】 新オレンジサポート室(宜野湾市普天間1-9-3)

2. 本日のプログラム ①勉強会 テーマ「食べるを支えるお手伝い」講師：言語聴覚士 上間悠子
②交流会(近況報告)

3. 参加者数 9人(内訳：当事者0名、家族5名 専門職4名)

4. 当日の様子

今回は「食べるを支えるお手伝い」をテーマに、当法人言語聴覚士による勉強会を行いました。日頃介護をされている皆さんにとって食事(嚥下)への関心は高く、メモを取りながら熱心に聞き入る姿が見られました。咽への対応やとろみに関する事など質問も多く、後半は歯磨きのアドバイスもして頂き内容濃い勉強会となりました。ご家族より「普通専門家から飲み込みについて教えてもらえる機会はないからとても良かった」との感想もありました。また近況報告では、旦那様が当事者の奥様から「琉球オペラを見に行き行って凄く良かった。私まで病んだらいけないと思って。やっぱり気分転換はしないとね」と笑顔で話される場面があり、先輩であるご家族から「そうそう大変な時期ほど外に出たいと思うよね。私もそうだった」と、同じ立場を歩んできたからこそ、励ましに繋がる言葉掛けがありました。

5. 所感

食は心身の健康に直接繋がるがゆえに、嚥下に関しては介護するご家族にとって関心が高く、今回の勉強会は非常に有意義であったと思われまます。ご家族同士の相談や交流の場は勿論ですが、日々の介護に直結する知識を提供することも、カフェの重要な役割の一つである事を再認識するものでした。今回のスイーツはバニラマフィンでした。



★次回予定：2024年11月16日(土) 以上